

施策評価シート

基本目標

6 市民生活を支える 機能性の高い快適なまち

1 施策名

6-(1) 機能性の高い都市空間の形成

2 施策の概要

I きめ細かな土地利用の推進

樹林地などの自然的土地利用と住宅地などの都市的土地利用の調和・共生を図りながら、人口減少や少子・超高齢社会に対応したコンパクトな市街地を形成する集約型都市構造の実現に向け、土地の有効活用や高度利用とともに、公共交通体系の構築と合わせて居住や都市機能の誘導を図るなど、社会経済環境の変化に対応した、快適で利便性の高い、きめ細かな土地利用を推進します。

II 個性と魅力ある都市空間の創出

中心市街地内の回遊性の向上を図るとともに、周辺市街地の面的整備など生活環境の整備を行い、にぎわいとゆとりある都市空間を創出し、個性と魅力あるまちづくりを推進します。

III 豊かで多様なウォーターフロントの形成

豊かで多様なウォーターフロントの形成を目指して、鹿児島港港湾計画に位置づけられた各港区の整備計画及び利用計画を促進します。

IV 魅力ある都市景観の形成

自然環境の保全や景観に配慮した都市基盤整備に取り組むとともに、景観形成に関するルールに基づき、市民、事業者、行政の協働による良好な景観形成を推進します。

3 目標指標

(1) 実感指標（市民意識アンケート調査）

指標名	総計策定時現況	30年度:実績(A)	30年度:目標(B)	達成率(A/B)	3年度:目標(C)	達成率(A/C)	所管局
①「日常生活における生活利便施設が整備されている」と感じる市民の割合	※ 68.7%	69.1%	70.4%	98.2%	73.0%	94.7%	建設局

※28年度実績

(2) 主な指標

指標名	総計策定時現況	30年度:実績(A)	30年度:目標(B)	達成率(A/B)	3年度:目標(C)	達成率(A/C)	所管局
①地区計画の決定数	20か所	32か所	31か所	103.2%	36か所	88.9%	建設局
②景観形成重点地区の指定数	0か所	5か所	4か所	125.0%	5か所	100.0%	建設局

4 施策を構成する事務事業の状況

構成する事務事業（単位：千円）	24年度		27年度		元年度	
	事業数	予算額	事業数	予算額	事業数	予算額
I きめ細かな土地利用の推進	6	145,699	7	139,371	7	85,301
II 個性と魅力ある都市空間の創出	10	11,995,116	13	13,335,017	14	12,260,597
III 豊かで多様なウォーターフロントの形成	7	1,094,438	5	1,103,168	3	768,606
IV 魅力ある都市景観の形成	6	441,076	7	186,235	7	167,510
計	29	13,676,329	32	14,763,791	31	13,282,014

5 関係局による分析

■分析の類型及び施策の達成度基準

- A：十分に達成されている
実感指標のH30実績が総計策定時現況より上昇し、かつ、各指標のH30目標達成率が概ね90%以上
- B：概ね達成されている
A以外で、各指標のH30目標達成率が概ね70%以上
- C：あまり達成されていない
A、Bを除くもの

建設局（きめ細かな土地利用の推進、個性と魅力ある都市空間の創出、豊かで多様なウォーターフロントの形成、魅力ある都市景観の形成）

	分析	理由
施策の達成度	A	<p>(ア) きめ細かな土地利用の推進については、主な指標の「①地区計画の決定数」が目標を達成したほか、都市計画見直しでは区域区分の変更を行うとともに、立地適正化計画「かごしまコンパクトなまちづくりプラン」を策定し、コンパクトなまちづくりを推進している。また、土地境界に係るトラブルの未然防止や土地の有効利用の促進などを図るため、一筆ごとの土地の所有者や境界に関する地籍調査を進めている。【R元関連事業1、H24・27関連事業1】</p> <p>(イ) 個性と魅力ある都市空間の創出については、中心市街地や谷山地区などにおいて、にぎわいとゆとりある都市空間を創出するため、市街地再開発事業や土地区画整理事業などに取り組んでいる。【R元関連事業2-1-1～10、2-2、H24・27関連事業2-1-1～7、2-1-10・11、2-2】</p> <p>(ウ) 豊かで多様なウォーターフロントの形成については、国及び港湾管理者である県において、鹿児島港湾計画に基づき各港区の整備が進められている。【R元関連事業3、H24・27関連事業3】</p> <p>(エ) 魅力ある都市景観の形成については、地域住民等との協働により、景観形成重点地区として5地区（八重の棚田、磯、南洲門前通り、喜入旧麓、歴史と文化の道）を指定したことで、主な指標の「②景観形成重点地区の指定数」は目標を達成した。また、ブルースカイ計画事業（令和元年度から「無電柱化推進計画事業」に名称変更）や公共掲示板等リニューアル事業への取組みのほか、景観条例等に基づく建築等の届出に対する助言指導等により、都市景観の向上が図られている。【R元関連事業4、H24・27関連事業4】</p>

	考え方
今後の方向性	<p>(ア) きめ細かな土地利用の推進については、引き続き地区計画の策定による地区の特性に応じたきめ細かなまちづくりを進めるとともに、コンパクトなまちづくりを推進するため、かごしまコンパクトなまちづくりプラン（立地適正化計画）の着実な進捗を図るほか、団地再生計画の策定などに取り組んでいく。また、地籍の明確化を図るため、関係機関と連携して、地籍調査を推進していく。【関連事業1】</p> <p>(イ) 個性と魅力ある都市空間の創出については、引き続き市街地再開発事業や土地区画整理事業などに取り組むほか、田上小学校周辺における土地区画整理事業の検討を続けていく。【関連事業2】</p> <p>(ウ) 豊かで多様なウォーターフロントの形成については、引き続き国及び港湾管理者である県と連携を図りながら鹿児島港湾計画に基づく整備を促進していく。【関連事業3】</p> <p>(エ) 魅力ある都市景観の形成については、景観形成重点地区の更なる指定に向け今後も地域住民等と協働して取り組むほか、景観条例等に基づく建築等の届出に対する助言指導等を通して景観に配慮した都市基盤整備を継続していく。【R元関連事業4、H24・27関連事業4-1・4-2-1～3・4-3】</p>

6 行政改革推進委員会における評価・意見

【施策の達成度についての評価】

I きめ細かな土地利用の推進

主な指標①「地区計画の決定数」は平成30年度目標を達成していることやコンパクトなまちづくり推進のため計画を積極的に推進していることは評価できる。

II 個性と魅力ある都市空間の創出

中心市街地や谷山地区などさらなる発展に向けての市街地再開発事業や土地区画整理事業など、数多くの取組が推進されており、期待感が持たれている。

III 豊かで多様なウォーターフロントの形成

国や県における鹿児島港湾計画に基づく各港区の整備や、鹿児島県の「鹿児島港本港区エリアまちづくり事業」の進捗などとの連携を図りながら、施策が進められている。

IV 魅力ある都市景観の形成

主な指標②「景観形成重点地区の指定数」が最終目標値を達成しており、さらに景観形成重点地区を増やす準備が進められているため順調である。

これまで歴史的建造物等が取り壊されてきた傾向があること、また、景観配慮の意識も課題であったことから、ルールに基づき事業所等にも働きかけている点は評価できる。

・実感指標

「『日常生活における生活利便施設が整備されている』と感じる市民の割合」は着実に伸びているが、伸びが微増に留まっている点には留意し、引き続き施策の推進が必要である。

【今後の方向性についての意見】

I きめ細かな土地利用の推進

総合的・計画的な土地利用を推進する取組を進めるとともに、「かごしまコンパクトなまちづくりプラン」の下で各地域・区域のまちづくり、利便性の維持・向上に向けた取組を進めてほしい。

利便性においては、今後進行する高齢化に対応するためにも公共交通網の整備・充実が欠かせないため、関係部署とビジョンを共有しながら緊密に連携をとって施策を推進してほしい。

II 個性と魅力ある都市空間の創出

大型スポーツ施設・社会体育施設の整備については、都市空間づくりに対する影響力や予算規模も大きく、今後の鹿児島の発展を左右する。

個性と魅力、にぎわいとゆとりある空間創出をめざして多角的に分析し、長期的な戦略を立て、鹿児島市がリードし、県等と密に連携を取って推進してほしい。

III 豊かで多様なウォーターフロントの形成

鹿児島県の「鹿児島港本港区エリアまちづくり事業」等の進捗も見極めながら、観光客や鹿児島市民がウォーターフロントに親しめる環境づくりを目指し、引き続き、関係各所との連携、緊密な情報交換に努め、路面電車の延伸等、鹿児島市独自の施策の検討や工夫を継続していく必要がある。

IV 魅力ある都市景観の形成

景観計画や景観条例に基づく施策を着実に推進していくとともに、市民との協働の機会をとりえて、市民の景観に対する関心についてもより一層の向上を図る必要がある。

また、現在の5つの景観形成重点地区以外の新たな地区指定にあたっては、市民の意見・要望も踏まえ、鹿児島らしい歴史と文化、緑の薫る都市景観の形成に向けて取り組んでほしい。

施策評価シート

基本目標

6 市民生活を支える 機能性の高い快適なまち

1 施策名

6-(2) 快適生活の基盤づくり

2 施策の概要

- I 良質で快適な都市基盤施設の整備
地震や風水害などに強く、すべての人が安全で安心して快適に生活できるよう、生活に密着した都市基盤施設などの効率的で効果的な整備などに努めます。
- II 環境や健康に配慮した生活基盤づくり
省エネやリサイクルなどを通じて自然環境への負荷の低減を行うとともに、新エネルギーの導入や自然素材の活用など、環境、健康や景観にも配慮した生活の基盤づくりを行います。
- III 多様なニーズに対応した住環境の形成
住まいをめぐる環境が複雑化していることから、市民の多様なニーズに応じた住環境の形成等により、快適な住まいづくりや地域の活性化を図ります。
- IV 既存都市基盤施設の有効活用と長寿命化
既存の都市基盤施設について、市民ニーズの変化等を基にしたあり方を踏まえた上で、有効活用を図り、計画的な維持保全などによる施設の長寿命化や環境対策等を推進していきます。

3 目標指標

(1) 実感指標（市民意識アンケート調査）

指標名	総計策定時現況	30年度：実績(A)	30年度：目標(B)	達成率(A/B)	3年度：目標(C)	達成率(A/C)	所管局
①「生活道路や上下水道などの都市基盤施設の整備により、安全・快適な生活の基盤づくりが進んでいる」と感じる市民の割合	59.2%	67.9%	67.5%	100.6%	71.0%	95.6%	建設局 水道局

(2) 主な指標

指標名	総計策定時現況	30年度：実績(A)	30年度：目標(B)	達成率(A/B)	3年度：目標(C)	達成率(A/C)	所管局
①主要な生活道路の整備延長	61.5km	72.1km	72.7km	99.2%	77.5km	93.0%	建設局
②住宅の耐震化率	85.1%	92.1%	92.0%	100.1%	95.0%	96.9%	建設局
③汚水処理人口普及率	90.2%	93.8%	94.3%	99.5%	96.0%	97.7%	水道局

4 施策を構成する事務事業の状況

構成する事務事業（単位：千円）	24年度		27年度		元年度	
	事業数	予算額	事業数	予算額	事業数	予算額
I 良質で快適な都市基盤施設の整備	32	15,375,291	29	14,439,932	25	12,730,345
II 環境や健康に配慮した生活基盤づくり	5	220,152	5	410,638	5	2,475,378
III 多様なニーズに対応した住環境の形成	6	213,015	10	605,766	9	217,775
IV 既存都市基盤施設の有効活用と長寿命化	15	2,046,219	16	1,804,777	10	3,145,725
計	58	17,854,677	60	17,261,113	49	18,569,223

5 関係局による分析

■分析の類型及び施策の達成度基準

- A：十分に達成されている
 実感指標のH30実績が総計策定時現況より上昇し、かつ、各指標のH30目標達成率が概ね90%以上
- B：概ね達成されている
 A以外で、各指標のH30目標達成率が概ね70%以上
- C：あまり達成されていない
 A、Bを除くもの

建設局（良質で快適な都市基盤施設の整備、環境や健康に配慮した生活基盤づくり、多様なニーズに対応した住環境の形成、既存都市基盤施設の有効活用と長寿命化）

分析	理由
施策の達成度	(ア) 良質で快適な都市基盤施設の整備については、主要な生活道路の整備を行うことにより、目標を十分に達成した。また、老朽化した市営住宅において、公営住宅等長寿命化計画に基づく計画的な建替えやエレベーターの設置、段差解消などのバリアフリーに配慮した整備を行った。【R元関連事業1-1-1、1-2-1~2、H24・27関連事業1-1-1、1-2-1~2】
	(イ) 環境や健康に配慮した生活基盤づくりについては、地域活性化住宅や既存集落活性化住宅を低層木造住宅とし、県産材の活用や雨水貯留タンクの設置など、環境、景観等にも配慮して整備を行った。【R元関連事業2-2-1~2、H24・27関連事業2-2-1~2】
	(ウ) 多様なニーズに対応した住環境の形成については、市営住宅における子育て支援住宅の整備や、過疎化の進行した地域において地域活性化住宅や既存集落活性化住宅の建設を行うことで、少子高齢化社会に対応した住環境の形成に努めた。 また、個人住宅等に対する耐震化やリフォームへの補助を行うことで、子育て・高齢者世帯の安心な住まいづくりを支援するとともに、主な指標の「②住宅の耐震化率」の目標達成の一助となった。【R元関連事業3-1-1~5、3-2-1~2、H24・27関連事業3-1-1~3、5~6、3-2-1~2】
	(エ) 既存都市基盤施設の有効活用と長寿命化については、各施設の長寿命化計画等に基づき、点検結果等を踏まえた計画的な維持保全を実施したことから、施設の長寿命化が図られた。 また、公共建築物における環境対策では、設備機器の省エネルギー運転支援に取り組み、電気使用量の削減を図った。【R元関連事業4-1-1・2・4、4-2-1・2・4、4-3-1、H24・27関連事業4-1-1~3、4-2-1・3・4・6、4-3-1・2】

今後の方向性	考え方
今後の方向性	(ア) 良質で快適な都市基盤施設の整備については、今後も幹線道路整備計画等に基づき効果的な幹線市道等の整備に努める。また、市営住宅については、引き続き計画的な建替えに努めるとともに、バリアフリー化及び周辺環境にも配慮した良質な住宅ストックの形成を図る。【R元関連事業1-1-1、1-2-1~2、H24・27関連事業1-1-1、1-2-1~2】
	(イ) 環境や健康に配慮した生活基盤づくりについては、地域活性化住宅や既存集落活性化住宅において、県産材使用による木造住宅の建設や敷地内緑化などにより、環境や景観等に配慮した住環境整備に努める。【R元関連事業2-2-1~2、H24・27関連事業2-2-1~2】
	(ウ) 多様なニーズに対応した住環境の形成については、市営住宅において、子育て世帯への優遇措置を行うとともに、子育てに配慮した住宅や地域の活力維持のための住宅の整備に努める。 また、個人住宅等に対する耐震化への補助や危険空き家の解体補助等を行うことで、安心して快適な住まいづくりを支援する。【R元関連事業3-1-1~5、3-2-1~2、H24・27関連事業3-1-1~3、5~6、3-2-1~2】
	(エ) 既存都市基盤施設の有効活用と長寿命化については、公共施設等総合管理計画を踏まえた各施設の長寿命化計画等に基づく計画的な維持保全を実施することにより、施設の安全性や信頼性の確保、長寿命化を推進するとともに、コスト削減を図る。 また、公共建築物における環境対策では、引き続き、省エネルギー運転支援に取り組み、電気使用量の削減を図る。【R元関連事業4-1-1・2・4、4-2-1・2・4、4-3-1、H24・27関連事業4-1-1~3、4-2-1・3・4・6、4-3-1・2】

5 関係局による分析

水道局（良質で快適な都市基盤施設の整備、環境や健康に配慮した生活基盤づくり、既存都市基盤施設の有効活用と長寿命化）

分析	理由
施策の達成度 A	<p>(ア) 安全で良質な水の安定的供給や良好な水環境と快適な生活環境の確保のため上下水道事業に努めており、上下水道とも対象区域において100%近く普及している。その結果、実感指標の「生活に密着した都市基盤が整備され、安全・快適な生活が出来ている」と感じる市民の割合については、概ね目標を達成していると考えている。【R元関連事業1-1-5.6.11.14～16.19.21～23、2-1-2、4-1-5、H27・H24関連事業1-1-4～18.24.25.36～38、2-1-3、4-1-5、4-3-3.4】</p> <p>(イ) 施策については、老朽施設の更新をはじめとする上水道の整備、水道管路の耐震化など水道事業全般にわたり実施しており、予算規模についても適切に確保している。 また、水需要が減少傾向にあることを踏まえ、長期的視点に立った施設能力適正化の検討結果に基づき、水道施設の統廃合を進めている。【R元関連事業1-1-5.6.14、H27・H24関連事業1-1-4～12.15】</p> <p>(ウ) 主な指標の「③汚水処理人口普及率」については、ほぼ目標を達成している。市街化区域内については公共下水道の整備を進め、その他の区域については合併処理浄化槽の設置の促進などを進めることで、快適な生活環境の確保が図られており予算規模についても適切に確保している。 また、処理施設及び管路施設の長寿命化に取り組むことにより、施設のライフサイクルコストの最小化及び更新事業費の平準化が図られている。【R元関連事業1-1-7、4-1-5、4-2-3、H27・H24関連事業1-1-19～23、4-1-5、4-2-2】</p>

考え方	
今後の方向性	<p>(ア) 上下水道事業については、節水機器の普及やライフスタイルの変化、人口減少などにより水需要は減少傾向にあり、また、老朽化して更新が必要な上下水道施設が増加していくと見込まれることから、厳しい経営環境にある。当該事業は市民生活や社会経済活動を支える都市基盤として重要なライフラインであることから、目標に沿って、今後ともさらに次のような施策を進めていきたい。</p> <p>(イ) 汚水処理人口普及率の目標達成に向け、公共下水道の整備とともに合併処理浄化槽の設置の促進などをさらに進めていく。 また、水需要の減少を踏まえ、上下水道施設の統廃合など規模の適正化や、施設及び管路の長寿命化を図る。さらに、企業債残高の縮減を行うなど、経営基盤の強化を図る。</p>

6 行政改革推進委員会における評価・意見

【施策の達成度についての評価】

I 良質で快適な都市基盤施設の整備

主な指標①「主要な生活道路の整備延長」は順調に伸びており、施策に基づき、計画的に取り組みが進められ、それぞれの特性に合わせたインフラ更新も図られている。

また、バリアフリー化は物理的に限界がある場合もあるが、公営住宅等長寿命化などについてもルールと計画に基づき順調に推移している。

II 環境や健康に配慮した生活基盤づくり

地域活性化住宅や既存集落活性化住宅を低層木造住宅として県産材を活用する取組や、雨水貯留タンクの設置など、環境や景観に配慮した施策が進められている点は評価できる。

III 多様なニーズに対応した住環境の形成

主な指標②「住宅の耐震化率」は平成30年度目標を達成しており、個人住宅等に対する耐震化への補助などの実施が成果を上げている。

また、子育て支援住宅の整備や空き家対策に関する事業などが遂行され、子育て世代、過疎化地域住宅対策が進み、多様なニーズに対応できていることから、地域の活性化や住環境の向上につながっている。

IV 既存都市基盤施設の有効活用と長寿命化

主な指標③「汚水処理人口普及率」については順調に推移しており、最終年度の目標値達成へ向けてさらなる施策推進が望まれる。

公共建築物の電気使用量を20%削減するなど、具体的な取組についても日頃からの努力がみられるが、省エネルギーの取組としてより一層の推進が望まれる。

・実感指標

「『生活道路や上下水道などの都市基盤施設の整備により、安全・快適な生活の基盤づくりが進んでいる』と感じる市民の割合」は平成30年度目標を達成しているが、最終年度の目標達成はもちろん、より多くの実感を得られるよう、さらなる施策の推進が必要である。

【今後の方向性についての意見】

I 良質で快適な都市基盤施設の整備

生活道路や上下水道の整備に着実に取り組んでいくとともに、バリアフリーに配慮した市営住宅の整備についても引き続き、計画的に施策を推進してほしい。

市営住宅のバリアフリー化については、全住宅の整備は困難であると理解できるが、住民のニーズの把握に努め、必要に応じたきめ細かな対応ができるよう、関係部署とも連携しながら取り組んでほしい。

上下水道に関しては、需要の減少という厳しい情勢への対応に努めながら、生活に不可欠なライフライン整備という重要な役割に対して引き続き、確実に施策遂行すべく取り組んでほしい。

II 環境や健康に配慮した生活基盤づくり

引き続き地域活性化住宅等における「県産材使用による木造住宅」建設など施策を確実に進めるとともに、市民への啓発にもつながるよう、環境や景観および健康に配慮した住環境の整備に取り組んでほしい。

III 多様なニーズに対応した住環境の形成

市営住宅において、子育て世帯への優遇措置を講じる子育て世代への支援や、単身世帯や高齢者のみの世帯など、これから増えていくと見込まれる層へ向けた取組も検討すべきである。

また、人口流出に歯止めをかけ、移住・定住人口を増やす意識を持ち、引き続き、統合的な施策を戦略的に推進していく必要がある。

IV 既存都市基盤施設の有効活用と長寿命化

計画的な施設の維持管理に努めながら、市民ニーズの変化を正確につかみ、低炭素・循環型社会の実現に向けても常に新しい情報を取り入れ最善の対応を選択し、施設の長寿命化とコスト削減へ向けて着実に施策を推進してほしい。

施策評価シート

基本目標

6 市民生活を支える 機能性の高い快適なまち

1 施策名

6-(3) 市民活動を支える交通環境の充実

2 施策の概要

I 総合的な広域交通ネットワークの形成

広域道路網や広域公共交通網の充実強化、陸・海・空を結ぶ交通結節拠点の機能強化など、本市と国内外との円滑な交流を支える総合的な広域交通ネットワークを形成します。

II 快適で機能的な交通基盤の整備

全市的な視点からの計画的な幹線道路網の整備や交通需要に即した道路等の整備など、自動車交通の円滑化と各地域間のアクセス向上を図る、快適で機能的な交通基盤の整備を進めます。

III 便利で効率的な公共交通体系の構築

各交通手段の適切な役割分担の下、結節機能の向上を図るとともに、公共交通不便地等における交通手段の確保のため、コミュニティバス等の運行や地域を主体とした取組等の促進に努めます。また、公共交通のサービス水準のさらなる向上や効率的な交通事業運営の一層の推進を図るなど、利便性・効率性の高い持続可能な公共交通体系の構築に向けて計画的な取組を進めます。

IV 人と環境にやさしい交通環境の充実

歩行者・自転車を優先した安全・快適な交通施設の整備や車両等の低公害化・低燃費化の推進、環境に配慮した交通行動の促進など、人と環境にやさしい交通環境の充実を図ります。

3 目標指標

(1) 実感指標（市民意識アンケート調査）

指標名	総計策定時現況	30年度:実績(A)	30年度:目標(B)	達成率(A/B)	3年度:目標(C)	達成率(A/C)	所管局
①「道路や公共交通などの交通環境が充実している」と感じる市民の割合	57.5%	62.1%	62.8%	98.9%	65.0%	95.5%	企画財政局 建設局

(2) 主な指標

指標名	総計策定時現況	30年度:実績(A)	30年度:目標(B)	達成率(A/B)	3年度:目標(C)	達成率(A/C)	所管局
①都市計画道路整備率	83.0%	84.6%	85.8%	98.6%	87.0%	97.2%	建設局
②公共交通利用者数	※1 80,079千人	※2 80,095千人	80,079千人	100.0%	80,079千人	100.0%	企画財政局
③市電・市バスの低床車両導入率	※1 53.1%	64.3%	69.0%	93.2%	75.8%	84.8%	交通局

※1：26年度実績値 ※2：29年度実績値

4 施策を構成する事務事業の状況

構成する事務事業（単位：千円）	24年度		27年度		元年度	
	事業数	予算額	事業数	予算額	事業数	予算額
I 総合的な広域交通ネットワークの形成	7	356,491	7	295,019	6	1,287
II 快適で機能的な交通基盤の整備	8	3,946,223	8	8,427,746	8	1,436,345
III 便利で効率的な公共交通体系の構築	15	3,998,698	15	8,761,726	12	2,080,781
IV 人と環境にやさしい交通環境の充実	11	1,921,628	17	3,184,520	16	2,403,439
計	41	10,223,040	47	20,669,011	42	5,921,852

5 関係局による分析

■分析の類型及び施策の達成度基準

- A：十分に達成されている
実感指標のH30実績が総計策定時現況より上昇し、かつ、各指標のH30目標達成率が概ね90%以上
- B：概ね達成されている
A以外で、各指標のH30目標達成率が概ね70%以上
- C：あまり達成されていない
A、Bを除くもの

企画財政局（総合的な広域交通ネットワークの形成、便利で効率的な公共交通体系の構築、人と環境にやさしい交通環境の充実）

分析	理由
施策の達成度 A	(ア) コミュニティバス等の運行については、公共交通不便地域など16地域で実施しており、沿線地域における買物・通院等の日常生活に欠かせない交通手段として定着している。【R元関連事業3-2-1、H24・27関連事業3-2-1】
	(イ) 交通施設のバリアフリー化については、鹿児島市新交通バリアフリー基本構想推進協議会において、新構想に位置づけられた事業等の進捗管理を行っており、概ね計画どおりに進捗している。【R元関連事業4-1-1、H24・27関連事業4-1-1】
	(ウ) 環境に配慮した交通行動の促進については、鹿児島都市圏地球温暖化防止交通対策協議会を通じて、エコ通勤割引制度の利用促進に取り組んでおり、29年度末でのエコ通勤割引バス利用者数は2,503人（都市圏全体）となっている。【R元関連事業4-3-2、H24・27関連事業4-3-1】

	考え方
今後の方向性	(ア) コミュニティバス等については、運行を継続するとともに、利用者のニーズを把握した上で、必要に応じた運行計画の見直しを行う。今後においても、各地域の実情に沿った効率的な交通手段や運行方式を検討する。【R元関連事業3-2-1、H24・27関連事業3-2-1】
	(イ) 交通施設のバリアフリー化については、鹿児島市新交通バリアフリー基本構想推進協議会において、新構想に位置づけられた事業等の進捗管理を行うとともに、現構想の目標年が令和2年度となっていることから、次期構想策定に向けた取組を行う。【R元関連事業4-1-1、H24・27関連事業4-1-1】
	(ウ) 環境に配慮した交通行動の促進については、エコ通勤割引制度のさらなる利用促進を図り、利用者増に努める。【R元関連事業4-3-2、H24・27関連事業4-3-1】

建設局（総合的な広域交通ネットワークの形成、快適で機能的な交通基盤の整備、便利で効率的な公共交通体系の構築、人と環境にやさしい交通環境の充実）

分析	理由
施策の達成度 A	(ア) 総合的な広域交通ネットワークの形成については、地域高規格道路では東西道路下り線の立坑設置工事などが、国道では10号北バイパスの祇園之洲地区の地盤改良工事などが行われ、着実な整備が進められている。 また、鹿児島港新港区では、耐震強化岸壁やフェリーターミナル等の整備が完了し供用開始された。【R元関連事業1-1-1～3、1-2-2、H24・27関連事業1-1-1～3、1-2-1】
	(イ) 快適で機能的な交通基盤の整備については、都市計画道路の計画的な整備に取り組んだ結果、整備目標を十分に達成した。 また、通学路や交通事故が多発している道路等において、交差点の改良やゾーン30など交通安全施設の整備に取り組んだ。【R元関連事業2-1-2、2-2-2、H24・27関連事業2-1-2、2-2-2】
	(ウ) 便利で効率的な公共交通体系の構築については、鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業において、駅前広場や自由通路等の整備に着手するとともに、谷山駅周辺において、土地区画整理事業と谷山地区連続立体交差事業を一体的に整備するなど、交通結節機能の強化に向け、着実に取組を進めている。【R元関連事業3-1-1～3、H24・H27関連事業3-1-1～3】

	考え方
今後の方向性	(ア) 総合的な広域交通ネットワークの形成については、鹿児島東西・南北幹線道路や国道10号鹿児島北バイパスの整備促進などについて、国・県に対し継続的な要望活動を実施する。【関連事業1-1-1～3、1-2】
	(イ) 快適で機能的な交通基盤の整備については、交通の円滑化を図るため、現在整備中の都市計画道路についても、全区間での供用開始に向け取り組んでいく。 また、通学路や交通事故が多発している道路等の交差点改良や歩道設置等の整備も引き続き実施する。【R元関連事業2-1-2、2-2-2、H24・27関連事業2-1-2、2-2-2】
	(ウ) 便利で効率的な公共交通体系の構築については、交通結節機能の強化に向け、鹿児島駅及び谷山駅周辺の整備を進めるとともに、谷山地区連続立体交差事業については、高架下等の整備に取り組む。【関連事業3-1-1～3】
	(エ) 人と環境にやさしい交通環境の充実については、自転車走行ネットワーク形成事業など、現在の取組を計画的に進めていく。

5 関係局による分析

交通局（便利で効率的な公共交通体系の構築、人と環境にやさしい交通環境の充実）

分析	理由
施策の達成度 A	<p>(ア) 施策の概要Ⅲの「便利で効率的な公共交通体系の構築」については、市バス利用者のニーズに沿った効率的な運行をするため、運行経路やダイヤの変更を行った。</p> <p>また、第二次経営健全化計画に基づき、市電・市バスの利用者へのサービス向上を図るため、路線や料金、停留所位置のほか、車両の現在位置や接近情報等の運行状況をリアルタイムでスマートフォン等により検索でき、多言語にも対応するロケーションシステムを導入したほか、増収対策や事業の効率化による経費削減などに取り組んだ。【R元、H24・27関連事業3-3-1、3-4-1】</p> <p>(イ) 施策の概要Ⅳの「人と環境にやさしい交通環境の充実」については、27年度に局舎、電車車両施設及びバス施設をリニューアル移転し、運行管理や業務の効率化、お客様サービスの向上を図るとともに、電車・バスの全車両にドライブレコーダーを導入し、安全運行や接客マナーの向上を図った。</p> <p>また、電車事業においては、利用者の安全確保のため、停留場のバリアフリー化等整備や軌道改良等を実施したほか、LRT整備計画に基づき超低床電車を導入した。バス事業においては、バス停の上屋整備を推進し、待合環境の向上に努めるとともに、高齢者をはじめ全ての利用者にやさしく、環境にもやさしい低公害低床型バスを計画的に導入した。この結果、主な指標「③市電・市バスの低床車両導入率」については達成率93.2%となった。【R元関連事業4-1-2・3・4・6・8・11・12・13・14、4-2、H24・27関連事業4-1-2・5・6・7・11・12、4-2-1・2】</p>
今後の方向性	<p style="text-align: center;">考え方</p> <p>(ア) 便利で効率的な公共交通体系の構築については、市電・市バスの定期乗車券利用者等の利便性向上のため、定期券等をキャッシュレスで購入できるよう、乗車券窓口にクレジットカード及び電子マネーの決済端末を設置することなど、今後とも経営健全化計画に掲げる各種施策に積極的に取り組むこととしている。</p> <p>一方で、交通局を取り巻く環境は、依然として厳しい状況であることから、市営バス路線の一部民間移譲による自動車運送事業の縮小を踏まえた次期計画の策定を行い、交通事業全体として将来にわたり事業継続が可能となることを目指す。【R元関連事業3-3-1・2、3-4-1、H24・27関連事業3-3-1、3-4-1】</p> <p>(イ) 人と環境にやさしい交通環境の充実については、電車事業は今後も、超低床電車の導入や停留場等の施設整備、並びにお客様に信頼される電車事業として引き続き、「安全性」、「速達性」、「快適性」、「定時性」、「大量輸送」の確保に努めるほか、センターポールのLED化を実施していく。バス事業は路線の一部民間移譲による事業縮小を踏まえながら、移譲後の市バスの運行路線に係るバス停の上屋整備や低公害・低床型バスの導入等を引き続き推進するとともに、車いすを利用される方々により安全、快適に貸切バスをご利用いただくため、リフト付き貸切観光バスも導入するなど、安全で快適な交通環境の整備に努めていく。【R元関連事業4-1-2・3・4・6・8・9・11・12・13・14、4-2、H24・27関連事業4-1-2・5・6、4-2-1】</p>

6 行政改革推進委員会における評価・意見

【施策の達成度についての評価】

I 総合的な広域交通ネットワークの形成

主な指標①「都市計画道路整備率」などの指標は概ね達成しており、計画的に整備が進み、順調に推移している。

II 快適で機能的な交通基盤の整備

主な指標①「都市計画道路整備率」は平成30年度目標を概ね達成しており、交通事故多発の道路等、現状の問題を把握し、改善に努めるなどしており、評価できる。

III 便利で効率的な公共交通体系の構築

人口減少基調下で公共交通利用者数を維持している点において一定の評価は可能であるが、その一方で、立地適正化計画・コンパクトシティ化を進めていかなければならないため、高齢者等の交通弱者が増加し、よりコミュニティバスや乗合タクシーなどの充実が必要になるなど、利用者を取り巻く環境変化についても今後目配りが必要である。

なお、今後については、利用者数といった絶対値のみならず、その属性についても把握し、きめ細やかな施策立案を可能とするような指標策定が望まれる。

IV 人と環境にやさしい交通環境の充実

主な指標③「市電・市バスの低床車両導入率」は平成30年度目標は概ね達成しており、バリアフリー化や環境配慮が進み、運行管理や接客マナーも向上が図られているため順調である。

自転車対策は長年の課題だったのではないかと思うが、放置車の台数が減少し、走りやすいまちを目指している点で評価できる。

・実感指標

「『道路や公共交通などの交通環境が充実している』と感じる市民の割合」は平成30年度目標を概ね達成しているが、目標値が低いと思われるため、他都市事例をベンチマーキングする等して、相対把握することが必要である。

【今後の方向性についての意見】

I 総合的な広域交通ネットワークの形成

最も重要な交通連結拠点であるため、国・県・隣接自治体・事業所とも連携しながらより一層広域化と円滑化に努め、利用しにくいというイメージを払拭してほしい。

特に、大河ドラマや映画等の影響で県外からも新たに注目を集めるようになった地方の各所にもスムーズに行けるよう、鹿児島東西・南北幹線道路や国道10号鹿児島北バイパスなどの整備促進について、国・県と継続的に協議をしてほしい。

II 快適で機能的な交通基盤の整備

人口減に伴い、利用者のニーズは年々変化していくため、その時の人口動態、移動動態に応じた柔軟性のある交通基盤構築が必要である。

また、事故多発箇所等への対応については、市民の安全・安心確保の観点から、数値目標を定めたいうえでの取組（見える化）も検討してほしい。

III 便利で効率的な公共交通体系の構築

キャッシュレス乗車ツールの導入については、導入・運営費用面含め多くの課題があるが、利用者の利便性向上のため、QRコード決済をはじめ、新たな方法の開発状況、ニーズ、他事例等を見極め、導入の道筋を探してほしい。

IV 人と環境にやさしい交通環境の充実

エコ・マネジメントという観点から、自転車で走りやすく、歩行者にも安心安全な都市をめざしてほしい。

経済的で、健康管理や渋滞緩和、省エネルギーに資する自転車通勤・通学の普及がより推進されるとともに、“かごりん”やレンタサイクルなどの利便性も向上し、観光客のリピーター化が期待できる。